

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071100939
法人名	有限会社めぐみ
事業所名	グループホームめぐみ
所在地	福岡県福岡市南区桧原1丁目17-16
自己評価作成日	令和7年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和7年2月17日	評価結果確定日	令和7年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅の一角にあり、裏庭には季節の楽しめる花を植えております。一軒家を改装した1ユニットですが、家庭的な雰囲気が醸し、昭和を思わせる、どこか懐かしい家庭的なグループホームです。各行事では入居者、家族、職員で楽しめるよう工夫し、ドライブは入居者に人気で桜やコスモス等、季節に応じて外出もしております。たくさん思いで作りができるようスタッフ同努力し、“すべては利用者様のために”を指針とし、利用者様が当たり前の生活ができるよう創りあげる支援を目指しています。また、医療ニーズの高い方も受け入れ、医療機関、訪問看護と連携し、早期の適切な医療が提供できるよう支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った閑静な住宅街の一角に「グループホームめぐみ」は位置し、一軒家を改装した昭和の雰囲気が漂う1ユニットの施設で、平成14年に開設されている。協力医療機関の医師や訪問看護師、介護職員が力を合わせて、24時間を安心して過ごせる医療体制が整っている。また、家族の「普通の家で最期を」と望む声に、医療ニーズの高い方も受け入れ、看取りケアにも取り組んでいる。地域交流にも力を注いでおり、近隣事業所と立ち上げた「西花畑まもり隊」の一員として、地域の困りごとや相談、依頼への対応に取り組むなど、今後も地域福祉の拠点として活動展開が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で全員で法令理念を唱和し、共有することで、自分たちのケアにずれはないか確認し、その人らしく暮らせられるように努めている。	法人理念を玄関と事務所に掲示しており毎朝唱和している。入社時に「MEGUMI NOTAME NOTE」という冊子を全職員に配布し、理念を共有し意識付けしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、清掃活動や、総会、地域事業所ネットワーク(西花畑守り隊)に参加し、地域の一員として貢献できるように取り組んでいます。	町内会に加入しており回覧板を利用者と共に散歩を兼ねて回している。清掃活動や地域ケア会議に参加し地域の情報収集や提供を行っている。「西花畑守り隊」に参加し地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災時の呼びかけや、町内行事に参加し、地域の方と情報交換、意見交換しながらサービス向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。グループホームめぐみの取り組みや、行事、事故報告などの事例を報告し、意見交換などを行っている。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議は、家族・町内会長・自治会長・民生委員・地域包括支援センター・薬局の参加を得ている。事業所の運営状況の報告や意見交換を行い、出された意見や助言はサービス向上に反映させる様努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加している。地域包括支援センター、市役所、医療関係、他事業者を交え、意見交換や情報共有をしている。また、他施設や、市町村からの問い合わせにも対応している。	日頃から市の担当者とは事業所の運営状況・取り組みなどをこまめに報告する中で、協力体制を築く取り組みがうかがえる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2つの事業所合同で、身体拘束についての勉強会を年2回実施。3か月に1回の身体拘束適正化検討委員会の開催している。 身体拘束の事例はない。	年間計画に取り入れ2事業所合同で、年2回勉強会を実施している。身体拘束適正委員会を3か月に1回開催し、身体拘束ゼロ宣言を掲げ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の勉強会を実施。高齢者虐待防止委員会を3か月に1回開催。 職員全体が意識を高め、日常的に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回、事業所での勉強会を実施。その他、外部研修参加を実施。 地域包括支援センターや司法書士等の説明を受け活用できるようにしている。	年1回事業所で勉強会を実施している。希望者は外部研修も参加し理解を深め、全職員に伝達している。パンフレットを常備し職員に周知している。家族からの相談があれば情報提供している。現在2名の利用者がおり、司法書士からの説明も受けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	紹介、問い合わせがあれば、都度説明し、契約時は細やかな説明をすることを心がけ、同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況報告等があれば電話で報告している。 電話や来訪時に家族の要望等伺い、プランに反映できるよう努めている。 ご意見箱の設置をしている。	家族からの要望は面会時に直接、または電話にて要望を聞き取り、業務の改善に反映している。事業所からは電話やLINEで月初めに、「めぐみ通信」を家族に送り情報提供している。、写真や状況報告を行っている。ご意見箱を設置している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回カンファレンス、勉強会時に意見交換をしている。改善してほしいところなど運営側に伝えている。	毎月1回のカンファレンス・勉強会・年1回の個人面談(経営会議)を設け意見を出しやすい環境づくりに努めている。改善した意見は改善後報告、そして評価している。効率の良い職場環境づくりを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の案内や参加、資格取得を促し、給料基準の改善を行っている。休みの希望や、有給など取りやすい環境をつくり、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別に関係なくその個人にあった能力を活かし、知識、技術を取り込める雰囲気づくりに努めている。 研修の案内があった際には伝達、掲示し、職員のスキルアップを目指している。	職員は、年間個人目標を掲げている。管理者は進捗状況を見ながら、達成に向けてアドバイスしている。採用にあたっては年齢・性別にとらわれず、職員一人一人の能力を発揮できやりがいを持って働けるよう配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法令遵守や高齢者虐待、身体拘束、ハラスメントの研修を行い、ケアや言葉使いなど職員同士で確認しあい、介護サービスに取り組んでいる。	身体拘束・高齢者虐待防止・法令遵守・ハラスメントの研修を年間計画に取り入れ、法人内合同で研修を行っている。内容は職員間で情報共有しケアに取り組む姿勢が見られる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会の参加、外部研修参加者による伝達、講習などのスキルアップを図り、職員の質の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内会の集会、地域ケア会議、地域イベント、事業所ネットワーク(西花畑まもり隊)などで情報交換をし、サービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、安心した生活が送れるように、不安や困難事項を相違気に対応できるよう家族や関係者と情報交換を密に行い、利用者ニーズを十分に聞き入れ信頼関係を築けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、自宅や入院、入居先を訪問し、利用者や家族の方の意見を十分に聞き、ニーズを引き出す努力をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で現況と、本人・家族の意向を十分に把握し、医療関係、他の専門職等の意見も参考にし、支援とサービスを取り入れ、本人が安心した暮らしが出来るよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個性や生活歴、背景を大切にし、ご自分で出来るところは可能な限りご自分でして頂き、出来ないところはサポートし、その人らしい暮らしが出来るよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心して生活ができるよう家族へ近況報告し、時には家族の協力を得て、ご本人のサポートが出来るよう努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のこれまでの生活を傾聴し、家族、友人、知人等の電話・面会はお伝えし、関係が途切れないよう支援に努めている。	入居前に自宅を訪問し、生活状況やなじみの関係を把握している。友人との付き合いは途切れない様になっている。なじみの場所へはドライブで行く等、なじみの関係が途切れない様に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでみんなと食事、体操やレクリエーション活動で利用者同士の人間関係が円滑になるよう職員が見守り、関わり合い、支えあえるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、利用者・家族や関係者から手紙や電話、当施設へ立ち寄ってくださることもある。必要に応じ、相談や支援を行えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望を傾聴し、生活リズムや行動を把握して、職員間で情報を共有し本人の意向に添えるように努めている。	入居時に本人・家族から生活歴や意向を聞き取りアセスメントを作成し、職員間で情報を共有している。日々の生活や会話の中で、さりげなく利用者の思いや意向を聞き取り、プランに反映させるよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の時代背景やこれまで暮らしてきた環境、家族背景を本人や家族からの話で情報を得て、安心して暮らせるように生活環境を整え、その人らしい生活が出来るよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態を把握し、表情や言動で汲みとり、職員間で情報を共有し、把握できるよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、サービス担当者会議、等で報告、連絡、相談しながら、プランを見直し、個々に応じた介護計画を作成している。	利用者・家族から意向を聞き取り、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、個々の現状に沿ったケアプランの作成に努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の内容、サービス記録の内容の実施・取り組み・気づき等を記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気大切に、利用者が気兼ねなく何でも話せる雰囲気作りを心がけている。一人ひとりに合ったサービス提供し、可能な限り柔軟性をもって希望に沿ったサービス提供が出来るよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や近所のお店で買い物をし、地域に溶け込めるよう支援し、安心して豊かな暮らしが出来るよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を図り、1か月に2～3回定期的な往診をして頂いてます。急変や緊急時にもかかりつけ医と協力体制を取り、早く医療提供が出来るよう、日頃から連携を図り、支援に努めている。	これまでのかかりつけ医を継続している利用者が多い。訪問看護師による日々の健康管理に加え、医師と連携を図りながら、緊急時の迅速な対応や、こまやかな報告により、本人、家族の安心と信頼に繋がっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の異常や急変時は管理者に連絡、又は、訪看に連絡することを徹底しています。報告を受け、主治医に報告し指示を受け、利用者が適切な治療・受診が受けれるよう努めている。マニュアル作成している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は安心して治療に専念できるよう家族や医療関係者と情報を共有し、早期退院が出来るよう、常に医療機関と連携を図っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族を含めて、重度化や終末期について説明し、重度化の場合はかかりつけ医と看護師による対応と治療、終末期・危篤時は家族と協議し、主治医と連携し、方針を共有している。	入居時に本人・家族に重度化や終末期についての方針を説明している。重度化が進むにつれ、タイミングを図りながら、話し合いを重ね、方向性を決めている。看取りの経験もあり、医療や家族と連携を密にとりながら、チームで終末期を支える取り組みが伺える。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時には、マニュアルによる対応と、医師・看護師による実施教育と医療機関への迅速な連携ができるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災・防災訓練を実施。地域の防災訓練に参加し、地域と相互協力体制を築いている。また、自然災害を想定した訓練も年2回実施している。(BCPのマニュアルに沿って実施)	年に2回昼夜を想定した火災・防災訓練と自然災害を想定した訓練を実施している。また自治会の防災訓練に参加し、事業所の存在と利用者の実情を把握してもらいながら、協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法令遵守研修などで職員の意識を高め、その人らしい個性や人格を尊重し、プライバシーを守れるよう介護の在り方について職員間で話し合い、自尊心やプライバシーを損なわれない対応を心がけている。	法人合同で研修を行い、全職員に周知徹底に努めている。言葉遣いや排泄や入浴時の配慮を忘れず、一人ひとりの人格を尊重し、普段から自尊心を損なわないさりげない対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気兼ねなく、希望や発言できるよう働きかけ、自己決定ができるよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調・気分を把握して本人の希望を尊重し、希望に沿った支援が出来るよう心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の個性を大事にし、本人の好む服装や、化粧、(おしゃれ)等ができるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の体調・状態に合わせ調理法や食事形態を変えたり、季節を感じた食事になるよう工夫しています。イベント等は利用者と一緒に料理したり、準備したり楽しみながら出来るよう努めている。	料理は調理済みの物が配達され、湯せん後、盛り付けられている。朝食は職員がみそ汁を作り提供している。行事のある日は、手料理が一品加わる。おやつは、コンビニや洋菓子店に出かけ品物を選んだり、ぜんざいやケーキ作りを楽しむ等、食を楽しむ工夫が伺える。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが食べる量、水分量を把握し、1日を通じて確保し、体調管理に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。本人が出来る支援を行い、できない方は一部介助～全介助でケアを行っている。 毎週土曜日に訪問歯科によるケアもあり、必要時は治療も出来る。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄できる方の見守りと、介助が必要な方の排泄パターンを把握し、個々の能力に応じた排泄援助を行っている。	排泄パターンを把握し、失禁を無くし本人の生活リズムに沿った排泄支援に努めている。日中はトイレでの排泄を基本としている。水分補給や体操・散歩の支援を続け身体を動かし便秘予防にも心掛けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防と対応を行っている。体操を行ったり、水分補給なども心がけている。主治医指示のもと下剤や坐薬等で調整しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴の日がありますが、本人の希望に沿い、入浴日以外でも入浴できるようにしている。また、入浴できない方は(状態に応じて)全身清拭や洗髪を行っている。	週2回入浴を基本としているが、一人ひとりの希望や体調に配慮し柔軟に実施されている。会話やコミュニケーションを多くもちながら、楽しく、リラックスできるよう努めている。季節が感じられるよう、入浴剤を使用している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠状態を観察・把握し、状況に応じて寝具・衣類調整・室温調整を行い、安心して睡眠が取れるよう工夫・支援に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、容量を理解し、症状の変化を観察、異常の早期発見に努め、医療機関・薬局へ報告、相談の連携を図り、薬の管理・服薬支援に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や誕生日会への参加、体操や歌、テレビ鑑賞等、ご本人に合わせて過ごしていただき、家事が出来る方には職員と一緒にいたり、その日その日が楽しく過ごせるよう信頼関係を構築できるよう心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は職員と散歩や近くのお店に買い物に出かけたり、裏庭で外気浴している。また行事では車で出かけたりし、楽しさを増やす機会を多く出来るよう努めている。家族の希望があれば外出・外泊の支援も行っている。	天気の良い日は、散歩や裏庭での外気浴や買い物を楽しんでいる。花見の時期には近くの桧原桜見学に行ったり、朝倉のコスモス見学やあじさい祭りに出かける等、普段は行けない場所への外出支援がなされている。また、家族の協力を得て、外出や外泊支援にも努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族や成年後見人へお願いしている。ご本人や家族の要望があれば買い物し、後請求で応じている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも電話が出来るように支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング横には台所があり、料理を調理する時は香りが漂います。季節を感じられるように、観葉植物の配置や装飾をし、居心地よく過ごしていただけるように努めています。	民家を改装した建物で、玄関を入ると台所があり、美味しそうな料理の匂いが、食欲を刺激する。台所のすぐ側にリビングがあり、利用者の殆どがここで、寛いでいる、お茶やお菓子を食べながら、仲良く談笑したり、職員とゲームを楽しんだり、家庭的で温かみのある空間で居心地よく過ごせる取り組みが伺える。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家改装ホームのため区間の確保が難しいですが、リビングに集まりレクリエーション活動や体操、テレビ鑑賞など行い、自由に居心地よく過ごせるように努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族の協力を得て、ご本人が使用していた物を持ってきて頂き、少しでも安心して暮らせるよう、住み慣れた環境に近づけるよう工夫することに努めている。	入居前に利用者・家族と話し合い、使い慣れた家具やテレビ・仏具・家族写真などを持ち込んでいます。安全な室内動線にも配慮し居心地よく過ごして頂けるよう努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ居室には危ないものを置かないように環境整備し、残存機能を生かし、自分の出来ることは行ってもらい、過介護はなるべく控え、職員情報を共有、カンファレンス等を行い、理念の統一した介護が出来るよう心がけている。		